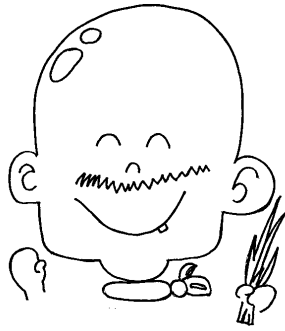


農大同窓会報

いあいさつ



同窓会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は本会運営にご理解ご支援頂きまして誠に有難うございます。

ご存じの方も多いと思いますが、長年の悲願で有りました新寮が完成いたしました。新寮の建設に尽力された、諸先輩、関係各位の方々に心より御礼を申し上げます。先日来イキイキとした寮生活を送る学生を目の当たりにしますと、本当に良い判断であったと思われれます。

私達にとっては、意外なことですが他県では、寮の廃止、在宅通学の流れが本意ながら広がっているようです。全寮制による教育効果から思いますと、他県の傾向は残念であります。

会長 柴田隆夫

この傾向が、農業大学校の現状のようです。現代の学生が、寮生活を敬遠するために入学者が減少。やむなく在宅通学を取り入れる農業大学校が増えているようなのです。他県の同窓会長からは、本校の新寮の建設は、大きな驚きと、羨望の眼差しで観られています。

効果はてきめん。本年度の入学者は、本校の歴史始まって初の定員越えの106名！素晴らしい結果を出すことができました。何度か新寮を拝見させていただきましたので、すこし紹介させていただきます。

外観は、白とブラウンを基調としたモダンな二階建て。内装は、明るく男女の区画の厳格化と、男女学生の比率変化にも対応可能な構造になっています。素晴らしい！

ひとり部屋の個室は、断熱効果の高いペアガラスにエアコン完備。トイレは、全館シャワートイレ。食堂は、明るい大きなガラスに囲まれた、開放的な

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564)51-1601
編集発行人
同窓会長 柴田 隆夫
印刷所 (南)イヅミ印刷所
電話(0564)21-2657

ペースに、専門業者さんに提供される、二種類のメニューから選べる(！)作りたての、美味しい(ホンマに！)食事。私達の時代からすると、まさに隔世の感が有ります。皆さんの周りにいらつしやる農業を志す若者に、自信满满々でお勧めできる内容となっております。どうぞ、全国に誇れる愛知県立農業大学校をご紹介ください。

ところで本年は、東海近畿ブロック9県の校長、同窓会会長会合が、本県で、6月9・10日の日程で行われました。この会合の中、印象に残った事の中から今日の農大、農業を取り巻く状況を考えてみたいと思います。

県内の優良事例のなかに、県農大OBの鍋田の鍋八農産さんの取り組みが紹介されました。テレビ等でも、多く紹介されたトヨタ自動車の手掛けている、農家支援プログラム「豊作計画」の取り組みです。150haもの面積の農場の管理は、一般農家の想像を超えています。作業忘れであったり、他人の圃場を作業してしまったり、万が一の為に苗の準備枚数が過剰になったりと、洗い出してみると

多くの改善点が見つかったそうです。この改善点を今では世界共通語トヨタ式カイゼンによる見直しを行い、すばらしい成果を納めています。トヨタ自動車では、農村から土地や人の供給を受けて発展できたという感謝の社会貢献という捉え方で取り組んでおり、採算は度外視での事業となっております。スマートフォンを活用しての農場管理は多くの企業が手掛けていますが、トヨタさんが凄いのは、スマホの農場利用を徹底的に研究改良することは勿論、作業内容の見直しや倉庫の効率利用まで踏み込み、見える化と共有化とカイゼンを推し進めていることです。

鍋八農産の取り組みは、一農家から21世紀の農場への脱皮とも言える取り組みでした。興味の有る方は、ネットでも紹介されています。



いあいさつ

校長 藤井 潔

本校同窓会会員の皆様方には、益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃から、柴田隆夫同窓会長様を始め、役員、理事、会員の皆様方には、本校校務の円滑な運営に格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本校校長として2年目を迎えて

ております藤井と申します。農業大学校での勤務は、農学科長、教育部長、副校長、校長を通算して、今年で6年目となります。平成21年度に初めて農業大学校に赴任する前は、水稲や小麦の品種改良や技術普及を中心に、農業総合試験場で30年間勤務しておりました。

新学生寮「和耕寮」が完成

なんとと言っても、今年の本校の一大ニュースは新寮が完成したことです。創立82周年を迎えた本校の中央教育棟北側に、今年1月、待望久しかった新学生寮が、旧寮建設時から数えて50年数年ぶりに完成しました。

これには、鈴木吉地前同窓会長様、野田留美現副会長様始め、関係各位の熱意と御尽力がなければ決して実現できなかったものと考えております。同窓会報の紙面をお借りして関係各位に深甚の謝意を表す次第です。

新寮の名称は、旧寮の「耕志寮」と「和光寮」から一字ずつを取って、「和耕(わこう)寮」としました。新寮の玄関前にある銘板の「和耕寮」の文字は、大村知事が自ら揮毫されました。本年4月からは1・2年生の全員195名が、新寮での生活をエンジョイしています。

新寮は、軽量鉄骨2階建てで、積水ハウスが設計施工しました。冷暖房を完備した6畳弱の洋個室が200室、洋式化した共同トイレ(シャワートイレ)、全館Wi-Fi(リース)を完備しています。ランドリーには洗濯機に加えて、コイン式の電気乾燥機を設置しました。また、明るく清潔感あふれる新食堂を併設するなど、現代の生活スタイル

ルに対応した全く新しい学生寮に生まれ変わりました。

一方、全寮制の寮生活でこそ培われる自主性、協調性、連帯感など、集団生活の優れた機能は残すべく、快適な共同浴場や各フロアに設置した談話スペースなど、学生が気軽に憩うことのできる共用施設も備えた寮とし、毎朝の点呼後に男女学生が自ら新寮を清掃しています。

卒業生の進路と入学者の状況

平成27年度卒業式を28年3月10日(木)に執り行い、農学科85名、研究科9名が新たな進路に進みました。

農学科卒業生85名中、半数弱に当たる39名が就農(後継者就農及び農業法人への雇用就農)し、就農前提の一次就職や研修を選択した者が3名、進学が10名でした。研究科卒業生は、就農が2名、農協等への就職が4名でした。卒業生には、本県農業の担い手として、また、農業を支える人材として、今後の活躍を大いに期待しております。

同窓会の皆様にも、これら卒業生と関わる機会がありましたら、先輩として御指導、御支援いただければ幸いに存じます。

4月7日(木)に平成28年度入学式を行いました。農学科には過去最多の106名が入学し

ました。また、研究科には農学科卒業生6名が進学しました。新入生の頑張りにも期待しています。

学生募集の成果

全国の農大の定員充足率は8割に留まっていますが、本校農学科では、直近5年では右肩上がりに推移しており、28年度入学試験においては、定員100を大きく上回る130名が受験しました。これには、農業高校との連携強化、推薦枠の2/3への拡大、新寮の効果、同窓会会員始め関係各位の御支援と御協力のおかげと感謝しております。

農業の担い手育成に向けて

本県の新規就農青年数は、近年150名と225名で推移しています。このうち、本校卒業生は、毎年2割程度を占めており、本県農業の担い手養成という本校の使命は一層重要と考えます。

この使命を果たすため、本校教育研修基本計画2020を策定し、農業への意欲の高い学生の優先確保、職員の学生教育指導能力の強化、先進技術施設等学習生活環境の充実に全学的に取り組みます。同窓会会員の皆様には、今後とも農大の使命達

成に、一層の御支援と御協力、御鞭撻をお願い申し上げます。小生は、今年度3月末をもって本校校長を定年退職いたしました。県職員最後の農業の人材育成という職務をいただき、「最もやりがいがあり、最も難しい仕事」。「職員の間人として

◆平成二十八年度理事会だより◆

平成28年2月9日(火)午前10時30分から、平成28年度農大中央教育棟研修室において開催されました。

柴田会長、藤井校長のあいさつの後、柴田会長を議長に選出して議事が進められました。

第一号議案 平成27年度事業報告については、同窓会報の発行、役員会・理事会の開催、卒業生への記念品贈呈、農業大学校同窓会全国連盟総会等への参加及び、同窓会創立80周年記念事業記念品費と同窓会新寮建設記念品費の執行について報告があり、異議なく承認されました。

続いて、第二号議案 平成27年度会計決算報告について説明の後、審議に入り異議なく承認

の度量」すなわち「人間力」が試される仕事」であると痛感した6年間に心から感謝します。

同窓会会員の皆様方の益々の御活躍と御繁栄を心より祈念申し上げ、併せて愛知県立農業大の学校を卒業していただき、私からの御挨拶とさせていただきます。

その後、第三号議案 平成28年度事業計画について、及び第四号議案 平成28年度会計予算について説明の後、審議に入り

両議案とも異議なく承認されました。

最後に、第五号議案 理事の委嘱及び役員互選について審議に入り、現在の役員を引き続き選出するとの原案どおり承認され、全ての議事を終了しました。

その後、「その他 役員及び理事の委嘱について」では、会長が委嘱する役員(事務局長、書記、会計)及び新理事についていずれも会長の意向どおり委嘱することになりました。

東海近畿ブロック同窓会長会議報告

平成28年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会会長会議が平成28年6月9日(木)から10日(金)にかけて愛知県立農業大学校を主会場に開催され、柴田会長が出席しました。

会議は、東海近畿ブロック農業大学校校長会議と合同開催され、初日の全体会議では、主催者あいさつ・来賓あいさつの後、東海農政局による中央情勢報告が行われました。

続いて、愛知県立農業大学校の卒業生であり、(有)鍋八農産の代表取締役の八木輝治氏による「ICT、雇用管理、6次産業化を活用した大規模水田作経営の展開」と題した講演が行われました。

さらに、校長会議と同窓会会長会議の分科会議がそれぞれ開催され、同窓会会長会議においては同窓会の現状等について、活発な議論が交わされました。

会議の2日目は、愛知県内でも特に農産生産額の高い豊橋市において、先進的な農業に取り組んでいる(株)サイエンスクリエイト(太陽光利用型植物工場)を始めとする4施設の視察が行われました。

次期理事會開催のお知らせ

同窓会規約により、平成29年度は次のとおり開催予定です。で、理事の皆様は出席をお願いいたします。

日時 平成29年2月3日(金) 午前10時30分から
場所 愛知県立農業大学校 中央教育棟研修室

☆☆☆ 名簿購入の御案内 ☆☆☆

《創立80周年記念》農業大学校同窓会名簿

創立80周年記念事業に併せて、平成26年11月に15年ぶりに新名簿を発行しました(平成27・28年3月の卒業生は、発行後なので未掲載です。)

まだ御購入されていない同窓会員様は、是非とも御購入をお願いいたします。

名簿領価:1冊3,000円(消費税、送料込。振替手数料は別途)

お問い合わせは、同窓会事務局まで(電話0564-51-1601)

平成二十八年年度 役員名簿

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長, 副会長, 書記, 事務局長, 顧問, 名譽顧問) and Name (e.g., 柴田 隆夫, 富永 康典, 牧野 文彦, etc.)

新学生寮について

「和耕寮」と命名された新学生寮が、平成28年1月15日に竣工し、3月1日より現2年生が入寮しています。

旧学生寮は建築後50年以上が経過しており、2人から4人の相部屋でした。トイレは和式で、共同浴場も食堂も老朽化していました。特に浴室は、大勢の学生が入浴すると、シャワーの湯量が足りなくなることもありました。エアコン設備もないため夏は暑く、冬は寒い居室でした。快適さを欠く環境の旧学生寮でしたが、卒業生に話を聞くと、一番の思い出は寮生活と答える者が非常に多くあります。その理由は、同室の仲間と夜遅くまで語り合ったり、遊んだりすることで、楽しい思い出が多くでき、生涯の友人を得ることができたからということでした。

新学生寮は、全室が個室となり、各室にエアコンを完備しています。トイレは全て洋式になりました。また、銭湯さながらの大きな共同浴場や食堂も併設しており、寮の生活環境が非常に快適になりました。また、従来の寮生活同様に友人と歓談できる共有スペースとして談話コーナーも設置しています。

新旧の学生寮を経験した学生の話によると、「寮生活が格段に良くなり、住みやすくなった」「お風呂にゆっくりと入れるのがうれしい」と評判は上々です。中でも一番学生に評判が良いのが、Wi-Fi環境が整備され、インターネット等が自由にできることです。

また、寮の自治活動を推進するため寮委員と話し合い、男女とも毎朝当番で寮内の廊下、階段、風呂場及びトイレの清掃を行うことを決めました。快適な新学生寮で、農業の知識、技術をより深く学び、多くの友人を作り、将来の愛知の農業を支える人材が育つことが期待されます。



談話コーナー



各居室

農業大学の近況

副校長 飯田 史生

一 概況

平成28年度の学生数は、教育部農学科(以下農学科と記す)が196名、教育部研究科(以下研究科と記す)が12名で、総数は208名です。うち女子は59名で28%を占め、3年前に比べ約2倍になりました。

専攻別学生数は、左表のとおりです。農学科は、露地野菜専攻と酪農専攻を希望する学生がやや多く、特に酪農専攻では女子学生が69%を占めています。研究科は、今年度が最後の入学になります。今年度も畜産専攻の入学者はなく、園芸農産専攻の学生のみとなっています。

二 入学状況

農学科の今年度入学者数は、過去最多の106名でした。うち、専業農家出身者は23名で全体の22%、非農家出身者は74名

平成28年度学科及び専攻別学生数(4月7日現在) (単位:人)

学科・専攻	1年生	2年生	計
農学科			
鉢物・緑花木	15 (2)	10 (1)	25 (3)
切花	15 (4)	9 (2)	24 (6)
作物	7 (2)	8 (2)	15 (4)
果樹	15 (4)	12 (2)	27 (6)
露地野菜	14 (3)	16 (3)	30 (6)
施設野菜	14 (4)	12 (0)	26 (4)
酪農	15 (12)	14 (8)	29 (20)
養豚・養鶏	11 (2)	9 (6)	20 (8)
計	106 (33)	90 (24)	196 (57)
研究科			
園芸農産	6 (2)	6 (0)	12 (2)
畜産	0	0	0
計	6 (2)	6 (0)	12 (2)
合計	112 (35)	96 (24)	208 (59)

()内は女子の人数で内数

平成27年度農学科卒業生の進路 (単位:人)

就職	後継者	10	(12%)
	農業法人	29	(34%)
進学	一時就職後就職	1	(1%)
	就職計	40	(47%)
その他	就職	30	(35%)
	研修	2	(2%)
合計	進学	10	(12%)
	その他・未定	3	(4%)
	合計	85	(100%)

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施し、多くの農業法人等から求人をお待ちしております。

三 進路状況

農学科卒業生の進路は左表のとおりです。後継者就職、農業法人への就職を合わせ39名(46%)の学生が就職し、一時就職後就職者も1名でした。非農家出身の学生の増加により、農業法人への雇用就職が増加傾向です。他の就職先は、農協や市場など、ほとんどが農業関連企業・団体でした。また進学者は10名で、うち6名が本校研究科へ入学、2名が国立大学への編入試験に合格しました。

研究科卒業生9名は、後継者就職1名、雇用就職1名、農協2名、農業関連企業等4名、その他1名でした。

四 専攻の近況(農学科)

(一) 鉢物・緑花木専攻

ガラス温室4棟、遮光ハウス1棟と緑花木の露地ほ場で、シクラメンなどの鉢花、コチヨウランなどの洋ラン、花壇ウランなどの洋ラン、花壇苗、観葉植物、花木、緑花木等100種類以上の品目を栽培しています。

25名が在籍し、うち18名は非農家出身の学生です。1年生の6月には、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木の4部門に分かれて少人数で細やかな指導を受け、実践的な知識・技術を早期に習得していきます。

また、校内だけでなく、市内の病院での定期的な実習販売にも取り組み、来場者への商品説明等を通じてマーケティングを学ぶとともに、接客対応の向上など自己研鑽を図っています。

(二) 切花専攻

4棟のガラス温室や繁殖室、露地ほ場で、輪ギクを主体に、バラ、カーネーション、ストック、ヒマワリなど県内で生産の多い品目を栽培しています。一部の施設には、LED照明やヒートポンプを導入しています。24名が在籍していますが、切花農家の後継者だけでなく、最近是非農家出身の学生が増加しています。

1年生は、8月まで全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月から、キク、バラ及び洋花の3部門に分かれ、実践的な栽培方法を学びます。1年生の後半からはプロジェクト学習として、バラの有望品種の選定、キクの直挿しによる低コスト生産など、各学生が様々な課題に取り組みます。

2年生は、品目毎の温室管理を任せられ、自らが考えて栽培管理を行っています。

(三) 作物専攻

1haの大区画水田など大小9区画、計3.3haの水田ほ場で大型機械を利用し、水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。また、育苗施設や乾燥調製施設を利用して、育苗から生産物の調製まで実習で行います。さらに、収穫物を利用した味噌や五平餅などの加工実習も行っています。

在籍者15名のうち、農家は4名のみで、多くは非農家出身の学生です。1年生では水稲栽培や機械操作の基本知識を身に付ける実習を進めています。

1年生の後半からプロジェクト学習が始まります。本校では農業総合試験場が開発した新品種や新技術をいち早く導入しており、これを題材にした新品種の栽培法や不耕起V溝直播栽培に関する課題、無農薬・無化学肥料栽培など付加価値の高い生産方法等に取り組んでいます。



コチヨウランの管理



カーネーション栽培の実習



女子学生による小麦の収穫

(四) 果樹専攻

露地面積は22haあり、ブドウ、ナシ、カキ、モモなど県内産地にあるほとんどの樹種を実習用に栽培しています。また、ブドウ、ミカン、イチジクのハウス栽培も行っています。

樹種が多様なため、開花期の四月から収穫前の7月までは摘果や袋掛けなどの管理作業で特に多忙です。

在籍する学生は27名で、入学当初は多くの樹種の基本的な栽培管理技術を学びます。その後、希望する樹種とプロジェクト学習のテーマを決めて、より専門的な知識・技術を習得します。今年のテーマは、「ブドウの簡易被覆が生育と品質に及ぼす影響」や、「ナシのジョイント栽培の省力効果」などです。昨年度、本専攻の学生のプロジェクトが全国大会で3位入賞しました。後輩達も後に続くよう頑張っています。



ナシの袋かけの実習

(五) 露地野菜専攻

露地畑1.5haでキャベツ、ハクサイ、ダイコンなど県内の主要野菜に加え新品目も取り入れて約40品目を栽培しています。また、本専攻では、イチゴの高設栽培も行っています。

専攻の中では最多の30名が在籍し、天候に左右される中、全員が協力して栽培実習に取り組んでいます。

プロジェクト学習は、2年間で1人2課題を実施します。学生自身が品目とテーマを決めて栽培計画を立て、播種から収穫・調整まで責任を持って管理します。最後に収支計算を行うことで、実践的な栽培技術や経営管理能力を習得します。

今年度のテーマは、「夏キャベツの施肥量の違いによる収量への影響」、「イチゴの初期2倍植えによる収量・品質への影響」などです。



野菜苗の定植作業

(六) 施設野菜専攻

10棟ある温室で、トマト、ナス、キュウリ、温室メロン等を栽培しています。最近では、土耕栽培に加えて、水耕栽培、ココバックを利用した養液栽培、少量培地耕、農業総合試験場開発の袋培地栽培など様々なシステムを導入しています。また、農業総合試験場や種苗会社の協力を得て、新たな単為結果性品種や耐病性品種など優良品種の栽培試験に取り組んでいます。

26名が在籍していますが、今年度は3年ぶりに女子学生4名が加わりました。本専攻では、専攻代表を輪番制とし、全員が役割を担うようにしています。

プロジェクト学習は、2年間で1人2課題を実施します。今年度は、「トマトの低段摘芯密植栽培に適した品種の検討」や「ナスの単為結果性新品種の施肥量の検討」等に取り組んでいます。

プロジェクト学習は、2年間で1人2課題を実施します。今年度は、「トマトの低段摘芯密植栽培に適した品種の検討」や「ナスの単為結果性新品種の施肥量の検討」等に取り組んでいます。



施設ナスの収穫作業

(七) 酪農専攻

フリーストール牛舎でホルスタイン種の搾乳牛約25頭と育成牛30頭、肥育牛10頭を飼育しています。また飼料として牧草やトウモロコシを生産しています。学生は、酪農と肥育牛の両方の飼養管理技術を習得します。

29名が在籍し、うち20名は女性です。酪農の後継者はおらず、ほとんどが非農家出身者のため、本格的な酪農作業は未経験です。初めて牛に触れる新入生も、2年生の助言も受けながら搾乳や給餌、除糞など基本的な管理作業を習得し、牛の扱い方に慣れていきます。2年生は、より高度な技術習得とともにプロジェクト学習を行います。今年度のテーマは「ヤシ殻外皮敷料利用後の堆肥化」、「毛刈りによる暑熱対策」等です。

畜産では唯一視察を受け入れ、本校周辺の園児などが農業とのふれあいのため訪れています。

畜産では唯一視察を受け入れ、本校周辺の園児などが農業とのふれあいのため訪れています。



搾乳作業の様子

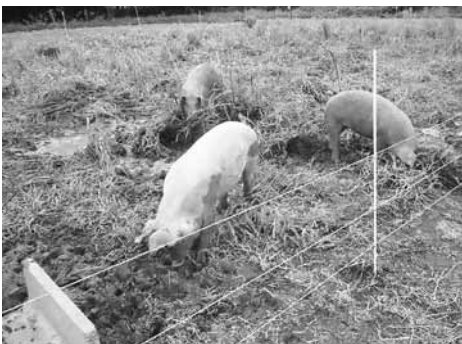
(八) 養豚・養鶏専攻

今年度は、豚鶏合わせで20名が在籍し、賑やかになっていきます。全員が養豚・養鶏の後継者ではなく、5月に本人の希望により、豚と鶏のコースに分かれた後に、基本的飼養管理を習得していきます。

養豚コースでは、開放・平飼い・ウインドウレスの3パターンで名古屋コーチンを主体とした採卵鶏を約2400羽飼育しており、卵は直売もしています。校内の直売では毎行列がで、学生は生産から販売までの貴重な体験をしています。

養豚コースでは、県の系統豚であるアイリス系の三元豚を繁殖から肥育・出荷まで行い、学生は一通りの管理方法を学んでいます。種付けは自家採精し、全て人工授精を行っています。最近では肥育豚の放牧など新たな技術にチャレンジしています。

養豚コースでは、県の系統豚であるアイリス系の三元豚を繁殖から肥育・出荷まで行い、学生は一通りの管理方法を学んでいます。種付けは自家採精し、全て人工授精を行っています。最近では肥育豚の放牧など新たな技術にチャレンジしています。



肥育豚の放牧試験

農大祭

2015今年も大盛況

平成27年12月5日(土) 午前10時から午後2時まで、農業大 学校岡崎キャンパスにおいて「農大祭2015」を開催しました。

今年は晴天に恵まれ、昨年を上回る三千名以上の来場者がありました。例年人気のある、鉢物・緑花木(シクラメン、ポインセチア、シンビジウム、洋ライオン等)と堆肥の販売では、午前9時の整理券配布から、長い行列ができていました。

農畜産物の販売は、午前10時の開始から順調な売れ行きとなり、午前中に完売が続き、お昼に向けて人の波は農畜産物から食品パザールに移って行きました。芝生広場では愛知の農産物で作った農大鍋や五平餅に長い行列ができ、食品パザールでも売



好評の農大産の農畜産物販売

り切れが続出しました。学生達は農大で収穫した農産物を元気に声を出して販売していました。

また、茶道部による農大茶席、午前午後2回に分けて実施された農大キャンパスツアーやグレート家康公「葵」武将隊の演武もあり、大盛況の農大祭となりました。

農大祭でみなさんを

お待ちしております

平成28年度も12月3日(土)に農大祭を開催します。今年度は「実りある農大祭―伝え合う農の疾風(かぜ)―」をテーマに、例年どおり農産物販売、各種パザールなどの取り組みを通して、愛知県の農業の魅力と大切さを伝えていくとともに、地域の皆様に農業大学校を身近に感じて、楽しんでいただけるよう学生が中心となり準備を進めています。

多くのみなさまの御来校をお待ちしています。

オープンキャンパス

「農大発見の日」を開催

6月4日(土)、18日(土)に、オープンキャンパス「農大発見の日」を開催しました。

農業大学校の入学に関心のある方々を対象としたもので、2日間で高校の生徒等が69名、保護者や一般の方が55名、計124名と、昨年度の115名

より9名多い参加がありました。神奈川県や高知県など県外から参加された高校生も7名いました。

参加者は大講義室でパワーポイントを使った農大の概要説明を熱心に聞き入っていました。続いて、新しく建設された和耕寮や広大な敷地にあるほ場をクイズをしながら見学していただきました。

また、終了後は、入学に関する相談や卒業後の進路などについての相談を受け付けました。参加者は全員大変熱心で「このオープンキャンパスを通して入学したいという気持ちにより強くなりました。」「環境、施設等が素晴らしいと思います。ぜひ農大で農業の勉強が続けられたいと願っています。」「施設が整っていて、この環境で学べばきっと良い経験になると思っています。」「寮もきれいで気に入りました。」などの感想が寄せられました。



広い農大施設を見学する参加者

平成27年度卒論発表会を行いました

農学科の卒論発表会を1月8日(金)に開催しました。

卒論発表会は、専攻で2年間学んできたプロジェクト学習成果を卒業論文にまとめて発表するものです。

他の専攻がどのようなことを学んでいるのか日頃は知る機会がありませんが、各専攻から代表者が1人ずつ発表することにより、他専攻の実習内容を知ることができ、1年生にとっては、先輩たちのプロジェクトがどのような形となつて発表されるのかを知り、次年度の自分のプロジェクトに活かせるとても良い機会です。

卒論発表会の運営は学生会が主体となつて行い、決まったばかりの1年生役員の増田さんの司会により進められました。初めての大会でしたが、堂々かつ厳粛な進行でした。

発表は農学科各専攻代表者の2年生8名により行われ、いずれも入学以来2年近く取り組んできたプロジェクト研究の成果をパワーポイントを用いて分かりやすく丁寧に発表していました。

専攻代表だけでなく、いずれの発表も興味深く、2年生はもち

ろんのこと1年生もプロジェクト研究に取り組み始めていることもあり、関心も高く、熱心に発表を聞きながら、レポートを記入していました。

審査は、校長先生はじめ、4名の審査員が、「発表内容」、「発表方法及び態度」、「質疑に対する応答」の審査項目に基づいて行われ、審査の結果、最優秀賞に果樹専攻の古田龍之介君の「アドウ「ゴルビー」における環状剥皮と透明袋が果実品質に及ぼす影響」に、優秀賞に切花専攻の菱田羽惟さんの「バラ「イエローミミ」の同化専用枝の本数が品質と収量に及ぼす影響」と作物専攻の池田みなみさんの「レーザーレベラー施工後のほ場耕起方法の検討」が選ばれました。



ヤンマー学生懸賞作文で銅賞と奨励賞を受賞

ヤンマー学生懸賞作文は、ヤンマー(株)が主催し、次代を担う若者たちに農業と農村の未来について大いに議論してもらおうと始められ、農林水産省の後援も得て昨年度で26回目となつていきます。この間作文の応募総数は7469編にのぼり、今回は、全国の大学、農業大学校、高校から790編もの応募がありました。

懸賞作文のテーマは、「新しい農をクリエイトする」と題し、「世界で戦える農業」、「やりがい生きがいとしての農業」、「資源循環型農業の実現」を副題としています。農業に対する夢や思い、体験など熱い思いを作文にまとめられました。

たくさんの応募作品の中から、本校酪農専攻2年生の山田優さんの「命が循環する農業」がみごと銅賞を、また、酪農専攻2年生の遠藤瑞季さんの「牛たちから学んだこと」が奨励賞を受賞しました。

山田さんの作品は、高校時代に堆肥販売に関わったことから、不要と思われていた畜ふんが植物生産に利用され、植物が食糧になったり、家畜の飼料になったりと様々に関わり合いながら、循環しているというこ

とを感じ、食糧生産だけが農業ではないということを知りました。また、有害物質の含まれている液肥の浄化に取り組んだプロジェクトでは、環境を汚染してしまうような物質でも、うまく処理すれば有用な物質に変えることができるという体験を行いました。これらの体験や自分が専攻している畜産を学ぶ中で、農業にはたくさんの生命が関わりあつていて、人間の命にも影響を与えていることを強く感じ、生命は循環しているという循環農業のあり方が描かれています。

東海近畿地区9校の農業大学校生が集まるスポーツ大会が岐阜県で6月2日(木)、3日(金)の2日間開催され、本校から76名の学生が参加しました。競技会場は4カ所に分かれ、バスケットボール、卓球、バドミントン、軟式野球、テニス、バレーボールの6種目が開催されました。

遠藤さんは、農大酪農専攻に入学して初めて牛に接した時の牛の大きさや力強さへの驚き、毎日牛を管理する中で牛の気持ちになつて愛情を持つて扱っていることや分娩での体験など牛を管理することの様々な体験から牛との信頼関係や生命誕生の神秘について自分が感じた素直な心が生き生きと書かれています。

初日を終了した時点でテニスを除く5種目が決勝に残りました。野球は、全試合コールド勝ちの文句なしの優勝で昨年の雪辱を果たしました。バスケットボールは大阪府との決勝戦で一進一退の攻防戦をチームワークの良さで制して優勝を勝ち取りました。

東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会(岐阜大会)に参加し、優秀な成績を収める



表彰式

バレーボールは決勝のシーソーゲームで敗れ準優勝でした。卓球、バドミントン競技も団体では決勝で惜しくも敗れ準優勝でした。また、個人競技で



バスケットボールの試合

本校学生の奮闘結果

団体	優勝	野球、バスケットボール
団体	2位	卓球、バドミントン、バレーボール
個人	優勝	卓球S、バドミントンW
個人	2位	卓球S、バドミントンS

も優秀な成績を収め、特にバドミントンのダブルスは優勝でした。宿泊ホテルでは専攻や学年を超えて話をしたり、他県学生との交流会に参加したりして、楽しく過ごしていました。各種競技で真剣にプレーする学生の姿に清々しさを感じました。

お知らせ「農大だより」について

農業大学校では開かれた農大を目指して、「農大だより」を毎月発行し、各方面に配布し、本校ホームページにも掲載して広く公開しています。日頃の学習状況や学生の活躍、学校行事など様々な話題を写真とともに掲載しております。同窓会の皆様も是非ご覧ください。

本校ホームページ

「http://www.pref.aichi.jp/noudai/」中の「農大だより」をご覧ください。また、「愛知農大」で検索しても、ほとんどの場合に本校ホームページを見ることができます。

平成27年度海外派遣研修

引率を終えて思うこと

農学科2年生85名全員が、平成28年1月23日から1月30日までの8日間の海外派遣研修を実施しました。研修先は、昨年同様、オーストラリアのシドニー市及びその約60km北西に位置するファームステイファミリーがあるホークスベリー地域でした。早朝の中部国際空港に全員集



研修参加者集合写真



畜産農家でのファームステイ

合し、予定どおりシドニーに向けて出発。順調な滑り出しとなりました。ただし、ほぼ丸一日に及ぶ長い航路のため、途中で気分がすぐれない学生もいましたが、大事には至らず、シドニーに予定どおり到着。その後、貸し切りバス2台に分乗し、市内を視察（オペラハウス等）。長時間の飛行機移動で疲れはあったものの、学生たちは、日本と正反対の真夏の気候や環境の違いに驚いていました。

その日の午後には、シドニーからホークスベリーに移動し、

そこでホストファミリーとの対面式を行いました。岡村先生・河合学生代表が挨拶し、河合くんは必至に練習した英語を披露しみんなの笑いを誘っていました。その後、楽しい雰囲気なか、3〜4人のグループに分かれ、各ホストファミリー宅（25戸）に自家用車で移動、3泊4日のファームステイがスタートしました。

ホストファミリーは大規模な農家経営ばかりでなく、兼業農家や現役をリタイヤした後に楽しんで農作業を行っているところもあって、そうした農家では、他の大きなホスト農家へ学生が通って体験実習を行いました。学生たちは、農作業やホームステイを通じて、オーストラリアの生活を肌で感じ、オーストラリアにおける農業に取り組み考え方を熱心に吸収しようとしていました。電子辞書・携帯の翻訳機能を使い、会話しようとする学生もおり、積極的にホストファミリーとのコミュニケーションに取り組んでいました。短い期間でしたが、学生達は、食生活や文化、国民性などの違いをしっかりと感じとったようになり、充実したファームステイとなりました。



ファームステイ先での体験実習

ファームステイ終了後は農業関連視察で、専攻別に2台のバスに分乗し、1号車はワイナリー、果樹農家、野菜農家、2号車は花農家、アルパカ農家、乳牛農家を視察しました。その翌日は、早朝からフレミントン卸売市場を見学、日本では見かけない産物も多く見ることできました。そのあと、ホームセンター、動物園を見学しました。また、海外食糧事情研修として海外で活躍している日本料理店「鱒屋」の経営者である平松氏等から興味深い話を聞かせて頂きました。

日本と異なったオーストラリア農業の方法などを熱心に見聞きしながら、飼育方法や栽培方



フレミントン卸売市場視察

法、農業に対する考え方の日本との違いに驚いていました。質問も多く活発で、予定時間を超えることもあり、有意義な視察になったと思えました。

最終日は、自由行動とし、シドニー市内を散策しました。帰路は、再度、シドニー国際空港からシンガポールを経由、途中で体調を崩す学生がいましたが、無事、全員が中部国際空港に帰ることができました。

この海外体験により、国際的な感覚を養い、広い視野でもって、日本農業を見つめ直すことができて、それぞれの学生にとって、貴重な経験となったものと思えます。

研修部の各種研修紹介

研修部では、農業者が社会情勢の変化と進歩する農業技術に対応するための研修と、一般県民が愛知県の農業を理解するための研修を年間を通して実施しています。今年度実施する研修の定員総数は3521名ですが、研修によっては可能な範囲で受入れを増やしています。

【1 農業者生涯教育研修】

農業を担うべき者を対象に、農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。担い手の確保を目的とした研修は、高校生を対象とした「緑の学園研修」のほか、主にUター



農業者育成支援研修

ン就農者を対象とした「ニューファーマーズ研修」、新規参入や農業法人への就職を目指す「農業者育成支援研修」があります。農業者育成支援研修は、平成24年から実施し、主に農業以外の分野から新規就農を希望する方が農大のほ場で栽培技術を学んでいます。

なお、緑の学園研修は、県下各地域の農林水産事務所農業改良普及課と地元の農業高校が連携して地域版の研修を行っています。

また、農業者が必要とする知識・技術をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」、「農産物利活用研修」を実施しています。

【2 農業機械研修】

農業を担うべき者を対象に、農業機械に関する知識・技術修得を目的とした研修を実施しています。

免許を取得する「大特免許研修」、「けん引免許研修」の他、研修修了証が取得できる「小型車両系建設機械研修」、「フォークリフト研修」、「アーク溶接研修」、「刈払機研修」等を実施しています。



けん引免許研修

農業機械に関する研修は、免許や研修修了証の取得に直結するだけでなく、安全で効率的な農作業に不可欠であるため人気が高く、中には受付開始初日で定員が埋まるものもあります。

【3 農業理解研修】

県民が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得て、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。

「県民公開講座」は、家庭での野菜や果樹の栽培を学ぶ講義型の研修と、地元産農産物を利活用する農産加工実習があります。農産加工実習は毎回2倍以

上の応募があり、好評です。また、園児や小学生等が農大の生産施設見学等を通じて農業に親しみ、農業を理解するための「農業ふれあい研修」を実施しています。

【4 他機関との連携研修】

公共職業安定所長から本校での農業研修受講の指示又は受講推薦等を受けた離職者を対象に、新たに農業経営を開始したり、農業法人等へ就職したりするために必要な農業の基礎的知識・技術を習得するための「雇用創出農業研修」を実施しています。



農業ふれあい研修

平成28年度に研修部が実施する各種研修一覧

研修名		回数	定員数
農業者生涯教育	緑の学園	5	150
	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	経営管理	5	340
	生産高度化	10	1,020
	農産物利活用	3	60
農業機械	大特免許	6	120
	けん引免許	2	30
	大型トラクター作業	1	15
	小型トラクタ利用(初心者向け)	3	24
	農業機械士	1	30
	小型車両系建設機械	2	50
	フォークリフト	3	75
	アーク溶接	1	25
	刈払機	1	25
	玉掛け	1	10
	小型移動式クレーン	1	10
農業理解	県民公開講座	7	472
	農業ふれあい	—	1,000
雇用創出農業		—	30
合計		—	3,521



平成二十七年 卒業式

愛知県立農業大学校教育部農学科第31回生、教育部研究科第30回生の卒業式が、平成28年3月10日(木)午前10時30分から、多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、中央教育棟大講義室において盛大に挙行されました。

式では、農学科・研究科の卒業生を一人ひとり呼名し、代表者に校長先生から卒業証書が授与されました。

引き続き行われた表彰式では、農業大学校同窓会全国連盟会長始め各賞の表彰が行われ、19名が表彰を受けました。

また、同窓会から柴田会長が卒業生全員に記念品として、印鑑付きダブルペンを贈呈しました。

表彰式受賞者

優秀賞

〔愛知県知事賞〕

山口 真奈 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

原田 大輝 教育部研究科

園芸農産専攻

〔全国農業大学校協議会長賞〕

森下 竜悟 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

〔大学校長賞〕

毛利 仁美 教育部農学科

露地野菜専攻

天野 雅之 教育部農学科

作物専攻

落合 雅美 教育部農学科

酪農専攻

長元 楓 教育部農学科

果樹専攻

石原 由衣 教育部農学科

酪農専攻

森 涼吾 教育部研究科

園芸農産専攻

〔大学校長賞〕

川井 一希 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

井本 崇仁 教育部農学科

切花専攻

蟹江 由美 教育部農学科

作物専攻

大石 幸輝 教育部農学科

果樹専攻

伊藤 博章 教育部農学科

施設野菜専攻

村松 裕政 教育部農学科

露地野菜専攻

小川健太郎 教育部農学科

酪農専攻

中根 仁 教育部農学科

養豚・養鶏専攻

特別賞

〔大学校長賞〕

古田龍之介 教育部農学科

果樹専攻

農業大学校同窓会全国連盟会長賞

加古美沙希 教育部農学科

露地野菜専攻

農業大学校の職員

(平成二十八年七月一日現在) ○印は異動の職員

校長 藤井 潔

副校長 飯田 史生

〔管理課〕

課長 竹内 賢寿

主幹 石塚 浩一

主査 横井 元弘

主事 畔柳奈緒子

主事 岩田友依子

嘱託 細井 政孝

嘱託 青木 理可

〔教育部〕

部長 友松 啓二

(学務科)

科長 石黒さとみ

総括専門員 松下 康英

主任専門員 天野 淳

主事 森居 祐子

再任用 藤井 和弘

再任用 杉山 邦雄

嘱託 太田 育子

嘱託 犬塚 信子

嘱託 小林 和夫

嘱託 柴田 誠

(農学科)

(兼)科長 友松 啓二

科長補佐(花きG班長)

坂下 健

専門員 小木曾久志

専門員 山田 稔

技師 紀岡 亮治

技師 鶴田 瑞穂

嘱託 平岩香名子

科長補佐(作物果樹G班長)

横井 信之

主任専門員 坂野 満

技師 津田 健吾

技師 佐野 達也

再任用 伴 浩志

科長補佐(野菜G班長)

山本 厚

主任専門員 金子 良成

主任専門員 高須 義成

技師 安永美紗子

技師 内田 祐太

再任用 中西 英人

科長補佐(畜産G班長)

鳥居 雅樹

主任専門員 川上 幸裕

専門員 渡邊 久子

主任 西村 岳

技師 三輪 恒介

嘱託 小野伊佐郎

(研究科)

科長 杉浦 兼之

主任主査 松原 和之

再任用 眞子 伸生

再任用 浅野 義行

嘱託 神戸三智雄

〔研修部〕

(兼)部長 飯田 史生

研修科長 濱田 玲子

主任専門員 田中 義信

専門員 加藤 夕子

技師 本庄 弘樹

技師 関間 真雄

再任用 富田 良美

再任用 岡田 雄司

再任用 浅見 逸夫

嘱託 中村 彰

嘱託 大澤 史季

平成27年度 会計決算報告

1 平成27年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
1,973,173	1,421,186	551,987	自平成27.1.1 至平成27.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	1,680,000	1,680,000	0	農学科 84名
雑収入	1,000	130	△870	預金利息 27.2.22 31円 27.8.16 99円
繰越金	293,043	293,043	0	
計	1,974,043	1,973,173	△870	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	62,864	62,864	0	会員割20,000円 学生1名500×84名 振込手数料864円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,296	21,296	0	果樹技術部会 (はるき会) 活動補助
旅費	140,000	80,814	59,186	東海近畿ブロック同窓会長 会議(27.6.11~12)、全国連盟 総会(27.7.15)出席旅費
事務用品費	40,000	0	40,000	
会報発行費	800,000	826,165	△26,165	同窓会報第31号 発行・発送
会議費	150,000	116,751	33,249	役員会1回 27.1.21 理事会1回 27.2.6開催費 (通信費、旅費、昼食代)
賃金	10,000	0	10,000	
記念品費	218,400	182,832	35,568	卒業生記念品 (ネームペン、ピンバッジ) 27.3.5
表彰費	70,000	0	70,000	
個人情報業務委託費	130,464	130,464	0	会員アーク年間管理料129,600円 振込手数料 864円
交際費	10,000	0	10,000	
繰出金	200,000	0	200,000	
予備費	111,019	0	111,019	
計	1,974,043	1,421,186	552,857	

2 平成27年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
411,426	0	411,426	自平成27.1.1 至平成27.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	20	80	60	
名簿収入	0	18,000	18,000	名簿売上
繰越金	393,346	393,346	0	前年度より繰越
計	393,366	411,426	18,060	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	393,366	0	393,366	
計	393,366	0	393,366	

3 平成27年度 創立記念基金会計収支決算

(1)普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
3,144,619	0	3,144,619	自平成27.1.1 至平成27.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	0	△200,000	
預金利息	500	436	△64	
繰越金	3,144,183	3,144,183	0	前年度より繰越
計	3,344,683	3,144,619	△200,064	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
80周年記念 事業記念品費	500,000	0	500,000	28年当初支予定
新寮建設記念品費	1,000,000	0	1,000,000	28年当初支予定
予備費	1,844,683	0	1,844,683	
計	3,344,683	0	3,344,683	

(2)定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
500,200	0	500,200	自平成27.1.1 至平成27.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	100	100	0	
繰越金	500,100	500,100	0	前年度より繰越
計	500,200	500,200	0	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	500,200	0	500,200	
計	500,200	0	500,200	

平成28年度 会計予算

1 平成28年度 一般会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
会費	1,700,000	1,680,000	20,000	農学科85名
雑収入	200	1,000	△800	預金利息
繰越金	551,987	293,043	258,944	前年度より繰越
計	2,252,187	1,974,043	278,144	

支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
全国連盟会費	63,364	62,864	500	会員割 20,000円 学生1名 500×85名 振込手数料 864円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,296	21,296	0	10,000円×2部会 振込手数料 648円×2
旅費	100,000	140,000	△40,000	全国連盟総会、 ブロック同窓会会長会 議等の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	850,000	800,000	50,000	同窓会報発行費
会議費	150,000	150,000	0	役員会、 理事会開催費
賃金	10,000	10,000	0	
記念品費	221,000	218,400	2,600	卒業生記念品代 @2,600×85人
表彰費	70,000	70,000	0	同窓会員の 表彰記念品代
個人情報業務委託費	130,464	130,464	0	会員データ年間管理料 129,600円/年 振込手数料 864円
交際費	10,000	10,000	0	
繰出金	400,000	200,000	200,000	基金会計へ
予備費	176,063	111,019	65,044	
計	2,252,187	1,974,043	278,144	

2 平成28年度 名簿作成基金会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	0	200,000	一般会計から繰入
預金利息	20	20	0	
名簿収入	0	0	0	
繰越金	411,426	393,346	18,080	前年度より繰越
計	611,446	393,366	218,080	

支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	611,446	393,366	218,080	
計	611,446	393,366	218,080	

3 平成28年度 創立記念基金会計収支予算

(1)普通預金 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	500	500	0	
繰越金	3,144,619	3,144,183	436	前年度より繰越
計	3,345,119	3,344,683	436	

支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	1,845,119	1,844,683	436	
80周年記念事業記念品等	500,000	500,000	0	執行年度の変更
新寮建設記念品等	1,000,000	1,000,000	0	執行年度の変更
計	3,345,119	3,344,683	436	

(2)定期預金 収入の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
預金利息	100	100	0	
繰越金	500,200	500,100	100	
計	500,300	500,200	100	

支出の部

(単位 円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
予備費	500,300	500,200	100	
計	500,300	500,200	100	

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、他の会員も含めて、その状況を事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めて頂いて結構と言われる方がお見えになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入し、10月31日までに農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局
同窓会長 柴田 隆夫

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2
電話 (0564) 51-1601 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂へ会誌の発送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報（個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。）

株式会社廣済堂の個人情報取扱について

- いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
・ 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送
・ 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
(同窓会側に準じます)

- 提供いただいた個人情報については、株式会社廣済堂情報「コミュニケーション」(以下弊社)が責任をもつて管理いたします。
- 弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。
- ご提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
- 個人情報は原則として本人にかぎり、開示・訂正・削除を求めることができます。